

なぜ解体?



優美な曲線を描くショッピングアーケード。しかし、その歴史的景観に寄与しているもの(②)造形の規範となっているもの(③)再現することが規定している。

文部科学省は「登録有形文化財登録基準」を「建築物、土木構造物及びその他工作物(重要文化財及び文化財保護法第182条第2項に規定する指定を地方公共団体が行っているものを除く)」のうち、原則として建設後50年を経過し、かつ次の各号に該当するもの。①国土の歴史的景観に寄与しているもの(②)造形の規範となっているもの(③)再現することが容易でないもの」と規定している。

価値見いだし有効活用

これを三信ビルに当てはめてみると①初の西洋式公園である日比谷公園に隣接し、②明治・昭和の時代性を併せ持ち、③解体したら復元是不可能、とピタリ条件に当てはまる。

保存後の活用方法でも、例えば六木に曰額な皿税を投入し、魂のない(つまり常設展示のない)「国立新美術館」を作ることや、三信ビルを丸ごと改裝して美術館や博物館にするれば税金の無駄遣い抑制と重要な物保存の「二石二鳥」が図れるのではないか。

現にライバルの三菱地所は丸の内に三菱一号館を復元し、美術館として2011年にオープンさせる

予定だ。三菱一号館は1894(明治27)年に建てられた丸の内で最初のオフィスビルで、1968(昭和43)年に取り壊された。いかに歴史的建造物の喪失が社会的な損失か、三信ビルの解体が時代の流れに逆行する行為なのかを示す好例といえる。

三井不動産も解体後の開発計画に三信ビルが持つ魅力を生かした内容を盛り込む予定という。しかし「イメージ保存はまったく無意味です。そういう建造物は都内にもいくつありますが、どれもみじめで醜(みにくく)見た目にも美しくありません」(松永氏)。

三菱一号館が復元された

としても、それはあくま

でもレプリカ。本物が一

度失われたら二度と取り戻すことはできないの

三信ビル

解体工事のお知らせ	
この建物を下記のとおり解体します。	
解体工事の名称	三信ビルディング解体工事
解体面積	8,822.00 m ²
解体工事の概要	鉄骨コンクリート造 地上8階 地下2階 深度1階
事業主	(工事監修者) 住 所 東京都千代田区麹町1-1-2 氏名 三井不動産株式会社 千代田営業部 平成19年5月1日から
工 期	平成20年4月30日まで 平成19年3月31日
解体着手年月日	
古材(アスベスト)	無(平成18年8月3日調査)
跡地工事期間	平成19年5月14日から平成19年7月31日まで
飛散防止対策	立入禁止標識、消音化、保護具・作業着の使用
上記解体工事計画についてのお問い合わせは 下記にお願いします。	
住 所	東京都港区元赤坂1-3-8
氏 名	西島建設株式会社 東京営業部
連絡 先	担当: 石川 電話: 03-3591-2921

掲示された「解体工事のお知らせ」



帝都の面影漂う文化遺産 保存かなわぬ理由とは?

帝国ホテルから日生劇場方面へ日比谷通りを歩いていくと、古き良き時代の東京を感じさせる大きなビルが目に入る。三信ビルディング。1930(昭和5)年竣工(しゅんこ)うと、日比谷公会堂とともに現存する数少ない戦前の建築物のひとつだ。この「帝都」東京の面影を今に伝える文化遺産の解体工事が、5月1日から始まるという。一体なぜ保存がかなわないのか? その問題点を探つてみた。

現存する数少ない戦前の建築物

三信ビルは1929年

から8階はオフィス。こ

のビルは建物自体の価値に加えて、日比谷地区の景観に占める価値も大き

た。しかし、三井不動

産は今年5月1日から工事を開始すると告知した。57年間営業してきた商店街最後の店「ニュー・ワールド・サービス」も3月30日に閉店し、翌31日をもってビルは封鎖された。

今では鉄扉で覆われて立ち入れなくなったり、貴重でノスタルジックな世界に接する機会は失われてしまつた。

同会の松永健吾代表は「多くの解体を通して、心休まる豊かさとは何か?」を考える必要があるのではないか? と語る。

「最近流行している総ガラス張りのオフィスビル

で働いても、心が満たされますでしょうか? 三信ビルは人の心に優しさや思いやり、物を大切にすることを教えてくれます。東京では再開発が盛んですが、これ

だけ。

封鎖される前の外観

解体は時代の流れに逆行

これを三信ビルに当てはめてみると①初の西洋式公園である日比谷公園に隣接し、②明治・昭和の時代性を併せ持ち、③解体したら復元は不可能、とピタリ条件に当てはまる。

保存後の活用方法でも、例えば六木に曰額な皿税を投入し、魂のない(つまり常設展示のない)「国立新美術館」を作ることや、三信ビルを丸ごと改裝して美術館や博物館にするれば税金の無駄遣い抑制と重要な物保存の「二石二鳥」が図れるのではないか。

現にライバルの三菱地所は丸の内に三菱一号館を復元し、美術館として2011年にオープンさせる。それでも、それはあくまでレプリカ。本物が一度失われたら二度と取り戻すことはできないの



帝国ホテルから日生劇場方面へ日比谷通りを歩いていくと、古き良き時代の東京を感じさせる大きなビルが目に入る。三信ビルディング。1930（昭和5）年竣工（しゅんこう）と、日比谷公会堂とともに現存する数少ない戦前の建築物のひとつだ。この「帝都」東京の面影を今に伝える文化遺産の解体工事が、5月1日から始まるという。「一体なぜ保存がかなわないのか？」その問題点を探つてみた。